

通常砂防事業再評価調書

路線・河川等名		かえる が たにかわ 蛙 ケ谷川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体		京都府	事業箇所（区間）	きょうとしきたくにし が もかみしょうだちょう 京都市北区西賀茂上庄田町 地内		
事業概要	路線・河川等概要	蛙ケ谷川は、京都府京都市北区西賀茂に位置し、流域面積約 0.55km ² で人家 129 戸及び市道を保全対象とする溪流である。				
	事業目的	台風による大雨や近年多発する局所的な集中豪雨により土石流の発生が懸念されることから、土砂災害の被害軽減を図り、地域住民の安全、安心を確保するため、土砂災害対策工事を実施する。				
	上位計画等	○ 京都府総合計画				
	整備内容	○ 砂防堰堤：1 基、溪流保全工：9 7 m ○ 全体事業費：約 9.0 億円				
事業の進捗状況及び今後の見込み	○ 事業着手：平成 27 年 ○ 令和 6 年度末までの進捗率：84%（金額ベース） ○ 令和 6 年度末までの用地取得率：100%（面積ベース） 用地取得は完了しており、現在は砂防堰堤の整備が完了し、今後溪流保全工の施工に向けて工事を実施する見込みである。					
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等の変化	○ 土砂災害から保全すべきものがある状況に変化はなく、本事業の有効性は変わっていない。				
事業の有効性	事業の投資効果及びその要因の変化	○ 前回評価以降も流域内における土砂・流木に対する整備率が不足しており、保全対象である人家 129 戸、市道の安全・安心の確保等はされていないため、本事業の有効性は変わっていない。				
コスト削減等	コスト削減代替案立案等の可能性	○ 現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで、他工事を含めた総事業費のコスト削減を図る。				
環境	良好な環境形成・保全	○ 工事の実施に当たっては、低騒音・低振動の施工機械を採用する。 ○ 現地発生土を他工事に流用し、有効利用を図る。				
総合評価		本事業は、土石流による土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から引き続き事業を継続する必要がある。				

かえるがたにかわ

淀川水系 蛙ヶ谷川 通常砂防事業

きょうとふ きょうとしきたくにしがも かみしょうだちょう
京都府 京都市北区西賀茂 上庄田町

○事業目的

蛙ヶ谷川は京都府京都市北区西賀茂に位置する溪流である。今後の大雨により土砂災害の発生が懸念され、早急に人家129戸及び市道の保全対策が必要です。

○事業概要

全体計画	R6年度までの実績	R7年度計画
H27～ 詳細設計、土質調査 砂防堰堤 1基 溪流保全工97m 総事業費：900百万円	詳細設計、土質調査 景観検討、用地測量 用地補償、砂防堰堤工 事業費：760百万円	溪流保全工 事業費：10百万円

○事業効果

保全対象：人家129戸、市道を保全し、土砂災害による被害軽減を図ります。

位置図



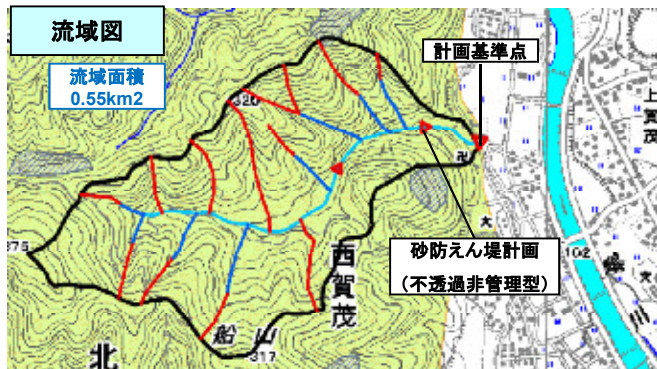
流域全景



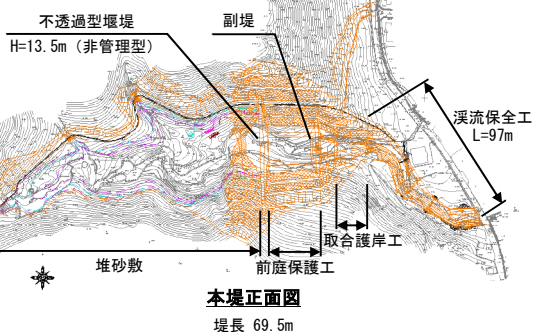
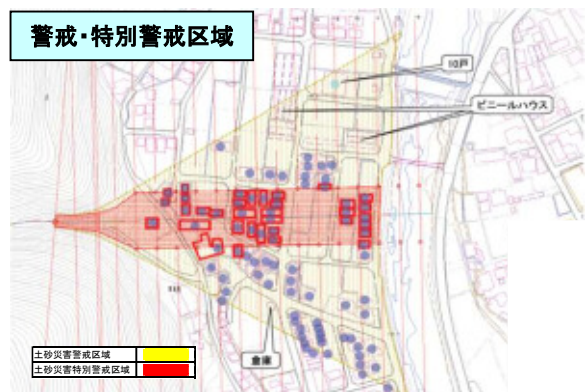
工事状況



流域図



警戒・特別警戒区域



『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	令和7年3月21日	
		作成部署	建設交通部砂防課	
事業名	蛙ヶ谷川 通常砂防事業		地区名	京都市北区西賀茂上庄田町地内
概算事業費	約 9. 0 億円		事業期間	平成 27 年度～
事業概要	砂防堰堤 1 基、溪流保全工 9 7 m			
目指すべき環境像	事業箇所周辺には住宅地が有り、景観への配慮が必要である。事業実施にあたっては、景観に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。			
関連する公共事業	なし			

評価項目			施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。 市内で指定希少野生生物が確認されている。	砂防堰堤を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の土砂移動を抑止し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。 野生生物の個体の生息又は生育への影響を最小限となるよう配慮する。	
	地形・地質	○			3
	物質循環（土砂移動）	○			4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。 また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	当該溪流周辺は、京都市風致地区条例における風致地区であり、地形の改変を最小限とし、景観へ配慮する必要がある。 また、地元住民に工事の周知を行い、本事業の意義を共有し理解を促す必要がある。	材料の選定においては、地域の自然環境との調和を図るよう努める。 地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働に努める。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			4
	その他				
外部評価					

(別紙)

構想ガイドラインチェックリストの記載要領

- 1) 「施工地の環境特性と目標」欄：評価項目の「主要な評価の視点選定の考え方」に当てはまる項目について、下記の記載要点を踏まえて施工地地の環境特性と目指すべき方向（環境目標）についての点検を行い、できるだけ具体的に（例えば絶滅危惧種の名称等）記載すること。
- 2) 「環境配慮・環境創造のための措置内容」欄：「施工地の環境特性と目標」の記載内容に対応して実施しようとする回避措置や自然再生・環境創出等の方策について記載すること。
- 3) 「環境評価」欄：評価項目ごとの環境配慮の自己評価を記載する。

（改善：5、やや改善：4、現状維持：3、やや悪化：2、悪化：1）

評価項目		「施工地の環境特性と目標」の記載要点
主要な評価の視点		
地球環境・自然環境	地球温暖化 （CO ₂ 排出量等）	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って温室効果ガスの著しい発生が予測されるため、発生抑制や吸収源の創出などが必要。
	地形・地質	・地域の自然環境の基盤となっている地形・地質の維持・保全・改善・回復などが必要。
	物質循環 （土砂移動等）	・河川における土砂移動機能が良（又は不良）であるため、その維持（又は改善）が必要。
	野生生物 ・絶滅危惧種	・京都府レッドデータブック掲載の「絶滅が危惧される野生生物」の生息地等が確認されたため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	生態系	・地域生態系の維持・保全・改善・回復などが必要。
	その他	・その他、施工地及び周辺地域における地球環境や自然環境の特性と目指すべき方向（環境目標）
	生活環境	ユニバーサルデザイン
水環境・水循環		・事業前の水環境・水循環が良（又は不良）であるため、その維持（又は改善）が必要。
大気環境		・事業前の大気環境が良（又は不良）であるため、その維持（又は改善）が必要。
土壌・地盤環境		・事業前の土壌・地盤環境が良（又は不良～汚染、沈下、水脈分断など）のため、その維持（又は改善）が必要。
騒音・振動		・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、騒音・振動の発生が予測されるため、発生抑制が必要。
廃棄物・リサイクル		・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、建設廃棄物の大量発生が予測されるため、発生抑制、再使用、リサイクルなどが必要。
化学物質・粉じん		・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、化学物質や粉じんによる汚染が予測されるため、汚染の防止・抑制が必要。
電磁波・電波環境・日照		・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、電磁波、電波障害、日照障害が予測されるため、障害の防止・抑制が必要。
その他	・その他、施工地及び周辺地域における生活環境の特性と目指すべき方向（環境目標）	
地域個性・文化環境	景観	・京都らしい自然景観や歴史的景観、都市景観が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	地域の文化資産	・史跡や天然記念物、歴史的に重要な遺跡、古道、伝承、家屋(群)など地域固有の文化資産が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	里山の保全	・多様な生物相や農村景観の重要な要素となっている里山が存在しているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	伝統的行祭事	・地域の伝統的な行祭事等が行われているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	地域住民との協働	・事業の構想、設計、施工、管理などについて地域住民との協働が必要。
	その他	・その他、施工地及び周辺地域における地域個性や文化環境の特性と目指すべき方向（環境目標）。